



第105回全国高校野球選手権大会

光星 勝負強さ発揮

砂子田先制打、藤原3ラン



【八学光星―ノースアジア大明報】5回八学光星1死二、三塁、砂子田陽士の中前打で二塁の新橋雄輝(左)が生還する



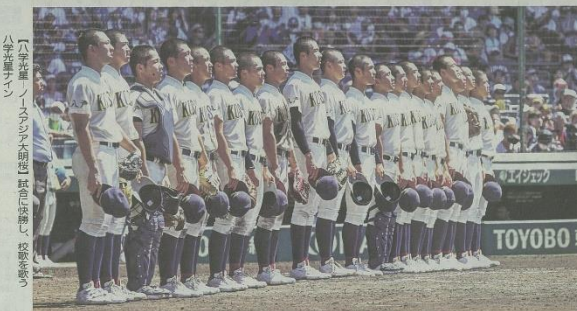
【八学光星―ノースアジア大明報】5回八学光星1死二、三塁、砂子田陽士が中前に先制の2点適時打を放つ



【八学光星―ノースアジア大明報】マエノミヤ雄亮(左)一塁、藤原天斗が

藤原、攻守に躍動

○…八学光星は藤原天斗が攻守に躍動した。3-0の七回2死一、二塁で内角高めの速球を引っ張って左翼席へ放り込み「気持ち良かった。投手が強かった。変化球をうまく使おうと思った」と打ち気をそらす配球で完封を支えた。



【八学光星―ノースアジア大明報】試合終了後、投球を喫った八学光星選手

八学光星・特井宗基監督「洗平は独特の雰囲気から離れていたが、相手を乱していたが、相手が強い投球をしてきた」
八学光星・中澤信貴主将「チームは甲子園の初戦で高ぶっていたが、途中から重くなって自分たちの野球ができた」
八学光星・砂子田陽士中堅手(五回に先制打)「先制点がめちゃくちゃ楽しくて、自分が決めてやるという気持ちだった。夢の舞台で打ててうれしい」

試合が動いたのは五回。チーム初安打の四球までつづいた1死一、三塁のチャンスに、一番打者の砂子田陽士が打席に入った。「先制したい。2年生の(洗平)比呂を倒したい」。浮いたタイミングを中前にはきき返す。二点適時打、待望の先制点をつた。七回には5番藤原天斗が甲子園に快首を響かせた。2死一、二塁で高めの直球を振り返り、「目はアチチを描いて左翼スタンドに狙う。高校通算で15本塁打を放っている投手打者は『甲子園で打つボール』は特別」と会心の3ランに満面の笑みを浮かべた。

仲井監督は「こころで集中力を発揮してくれただとサインを練習。終わってみれば優勝だった。打撃のキマン2人は投球も悪くない。試合の中で課題は多く見つけた。それをしっかりとつづけて完璧な状態で次戦に臨みたい」と砂子田・青森大から好調を維持する藤原は「チーム全体として1盗目で打てなかった。練習し直したい」と気を引き締めた。(千葉雄也)